



校訓： 進取 敬愛 剛健

児童像 【考える子 思いやる子 たくましい子】

# 英田っ子

学校だより 2月号

平成30年2月1日

校長 藤井恒雄

## ゆずり葉

1月半ば過ぎから毎日のように雪が降り、毎日冷蔵庫の中にある様な気がします。2月4日は立春。暦の上では春ですが、まだまだ厳しい寒さが続きそうです。保護者の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。学校では、運動場で雪あそびに歓声を上げる元気いっぱいの子どもの姿が見られます。また、休み時間に学校前の歩道確保に頑張ってくれた6年生の姿も見られました。子どもたちの登下校を見守ってくださる保護者、地域の皆様に心より感謝申し上げますとともに、事故・けがには十分ご注意くださいようお願いいたします。



県内ではインフルエンザ注意報が発令されています。本校でのインフルエンザ等による欠席は毎日数名程度ですが、急激に増えることもあり油断はできません。引き続き、風邪予防にご協力をお願いします。

3学期は書き初め大会で始まり、地域と連携した様々な学習がありました。4年生はMISIAの森へ行き、雪が積もった林を歩いたり、動物の足跡を探したりしました。6年生は地域の高齢者の方々とのもちつきや会話を通して総合の勉強「生き方学習」を行いました。今日は1年生が地域の方々から昔遊びを教してもらったり、一緒に楽しんだりしました。これからも、楽しく充実した学習を計画していきたいと考えています。また、校内ではなわとび運動を取り組んでいます。今週からは、長なわとび（8の字とび）で回数を競っています。多くの場面で子どもたちの一生懸命な姿も見ることができ、とても嬉しく思います。

さて、今日の集会で「ゆずり葉」の話をしました。ゆずり葉の木は、古い葉と新しい葉が交代します。冬の間中、寒さにじっと耐えて枝に付いているのですが、春になり古い葉が落ちた後には、次に出てくる若い芽がちゃんと育っています。冬の寒さから若い芽を守り、自分の役割を終えて落ちていく姿が、自分の命を次の葉にゆずっていくという意味で「ゆずり葉」と名付けられたそうです。2月は6年生を送る会やさよならふれあいタイムに向けて、学年やたてわりグループが動き出す時期です。そして、3月は卒業式です。このゆずり葉の姿は、ちょうど今の子どもたちの姿と似ています。6年生に代わり5年生が中心となって、児童会を運営しようとしています。6年生から英田小学校を引き継ぐ5年生から1年生は、このゆずり葉のように大事に守られて育ってきた若い芽です。その芽は大きく成長し、心をつないでいってくれると信じています。「ゆずり葉の心」は、どの学年にもあります。譲られるだけでなく、譲る人でもあります。6年生は、新しい6年生や全校児童のために、5年生は、新しい5年生のために、4年生は、新しい4年生のために、3年生は、新しい3年生のために、2年生は、新しい2年生のために、そして、1年生は、英田小学校に入学してくる新しい1年生のために。いろいろ学んだこと、考えたことをゆずって、次の学年に心をつないでいってほしいと思います。毎年繰り返され、それぞれの学年が創り上げてきた姿が、英田小学校の「伝統」として引き継がれて「校風」となっていくものだと思います。

学校では、進学や進級という新たなステップへの意欲や希望を持たせることを念頭に、現在の学年の学習内容や言動・マナーを身に付けさせることを、残り2か月となりましたが取り組んでいきたいと思っています。さらなるご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



### ゆずり葉 河合酔茗

子供たちよ。  
これはゆずり葉の木です。  
このゆずり葉は  
新しい葉が出来ると  
入り代わってふるい葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉  
こんなに大きい葉でも  
新しい葉が出来ると無造作に落ちる  
新しい葉にいのちをゆずって—

子供たちよ  
おまえたちは何をほしがらないでも  
すべてのものがお前たちにゆずられるのです。  
太陽のめぐるかぎり  
ゆずられるものは絶えません。

かがやける大都会も  
そっくりおまえたちがゆずり受けるのです。  
読みきれないほどの書物も  
みんなお前たちの手に受け取るのです。  
幸福なる子どもたちよ  
お前たちの手はまだ小さいけれど—

世のお父さん、お母さんたちは  
何一つ持ってゆかない。  
みんなお前たちにゆずってゆくために  
いのちあるもの、よいもの、美しいものを、  
一生懸命に造っています。

今、お前たちは気が付かないけれど  
ひとりでのいのちは延びる。  
鳥のようにうたい、花のように笑っている間に  
気が付いてきます。

そしたら子供たちよ。  
もう一度ゆずり葉の木のの下に立って  
ゆずり葉を見るときが来るでしょう。

